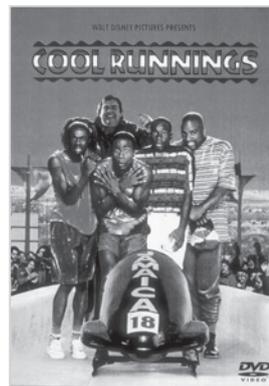


『クール・ランニング』

1993年/アメリカ/ジョン・タートルトーブ監督作品

零からゴールを目指す

会員 江田 翼 (70期)



【クール・ランニング】
DVD 発売中/デジタル配信中
©2018 Disney
発売/ウォルト・ディズニー・ジャパン

1 ストーリー

ジャマイカの100メートル選手、デリースは、金メダリストの父をもち、自らも優勝候補と言われる陸上選手だった。しかし、予選では、隣のコースを走っていた選手の転倒に巻き込まれ、オリンピックへの出場は叶わなかった。

委員会に抗議しているとき、デリースは父親と一緒に写っている1人の男の写真に目がとまる。その男は、かつて、ボブスレーで金メダルをとったことがある人で、今はジャマイカにいるという。

その話を聞いたデリースは、ボブスレーで金メダルを獲ろうと考え、3人の仲間と、元金メダリストの男を監督に、オリンピックで金メダルの獲得を目指す。

しかし、ジャマイカは雪がなく、ボブスレー用のソリもない。資金や人を集めようとするも、村のみんなには無理だと嘲笑され、相手にしてくれる人はいなかった。

そんな中で、何とか資金を調達してカナダに向かう。出場用のソリは、アメリカチームが使用していた中古で、慣れない氷の上を歩くことができず、他国の選手に嘲笑され、地元の新聞でも批難を受ける。

しかし、そんな心がくじけそうな状況の中であっても、5人は練習、訓練に励み、本戦出場を目指して、予選に臨む。

2 零からのスタート

雪がない、ソリがない、資金もない。ボブスレーのオリンピックに必要なものが何もなかったジャマイカ

が、それでも諦めずにボブスレーの練習に励んでいる姿には心をうたれた。周りの態度や接し方を気にしていたが、それでも自分たちの信じる方向に向かってチーム全員が進んでいく。それどころか、周りの態度を見て、自分たちの士気を高め、更に目標に向かって努力する。

これまで出場経験のなかったジャマイカが、何も無いスタートから、金メダルというゴールを目指す姿は、何も無いから諦めるのではなく、何も無いのであれば努力をするしかない、と伝えているように感じた。

3 零だからやらないではなく、 零だからこそやってみる

物事を始めるには、事前に用意しなければならないものが複数ある。

それは時には物であり、時には資金であり、時には環境であり。

しかし、必要なものがないというのは、それができないということではない。むしろ、何も無いからこそ、如何様にもすることができる、自分たちの思う目標を決めることができ、その目標に向かって進んでいける。

この映画が公開された後、ジャマイカでは国の支援により、オリンピックへの出場を叶えており、連続で出場を果たしている。

達成したい目標がある、という強い気持ちと努力さえあれば、結果は後からついてくる。この映画は、それを伝えたいのではないかと感じた。